

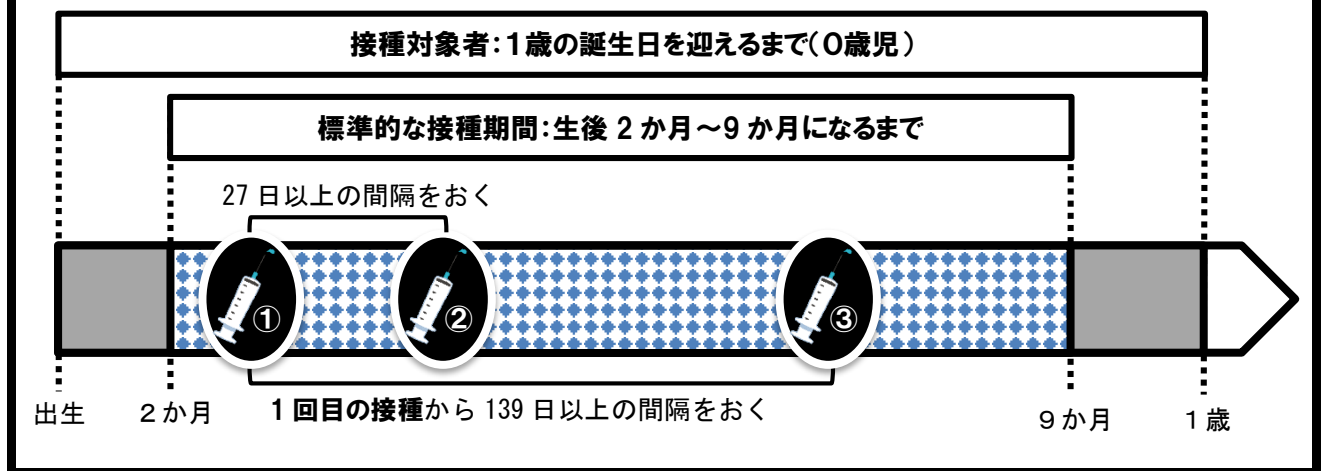
B型肝炎予防接種について

B型肝炎予防接種 接種スケジュール

【接種方法】

- ・ B型肝炎予防接種は、1歳の誕生日を迎えるまでに3回の接種を行います。
- ・ 標準的な接種期間は生後2か月から9か月になるまでの期間です。
- ・ 接種間隔は、以下のとおりです。

2回目の接種	1回目の接種から27日以上の間隔をおいて接種
3回目の接種	1回目の接種から139日以上の間隔をおいて接種



B型肝炎とは？ B型肝炎ワクチンとは？

- ・ B型肝炎は、B型肝炎ウイルスの感染により起こる肝臓の病気です。
 - ・ B型肝炎ウイルスへの感染は、一過性の感染で終わる場合と、そのまま感染している状態が続いてしまう場合（この状態をキャリアといいます）があります。キャリアになると慢性肝炎になることがあります。そのうち一部の人では肝硬変や肝がんなど命に関わる病気を引き起こすこともあります。ワクチンを接種することで、体の中にB型肝炎ウイルスへの抵抗力（免疫）ができます。
 - ・ 免疫ができることで、一過性の肝炎を予防できるだけでなく、キャリアになることを予防でき、まわりの人への感染も防ぐことができます。
- ※予防接種を受けても、お子さんの体質や体調によって免疫ができないことがあります。

当日はここをチェック

- ・ お子さんの体調はよいか、熱があったり、普段と変わったところはないかを確認しましょう。
- ・ 心配なことがあるときは、医師に相談しましょう。質問をメモしておくとなんか伝わりやすくなります。
- ・ 母子健康手帳は必ず持っていきましょう。

接種後の注意

- ・接種後、30分くらいは、医療機関の中でお子さんの様子を見てあげるか、すぐに医師と連絡がとれるようにしてください。この間に急な体調の変化が起こることがあります。
- ・接種後は寄り道などせず帰宅し、普段どおりゆったりと過ごしましょう。接種した箇所を清潔に保ってあげましょう。
- ・お風呂に入れてあげてもかまいませんが、接種した箇所をこすらないようにしましょう。
- ・母子健康手帳は、予防接種を受けたことを示す大事な記録となります。大切に保管しておきましょう。

接種後に起こるかもしれない体の変化

- ・接種箇所が赤くなったり、腫れたり、しこりができたり、痛みを感じたりすることがあります。
- ・注射したところだけでなく、熱がでたり、刺激に反応しやすくなったりすることがあります。
- ・いつもより機嫌が悪かったり、ぐずったり、眠そうにしたりすることがあります。
- ・極めてまれに、アナフィラキシー※1、急性散在性脳脊髄炎※2などの重い病気にかかることがあるといわれています。

予防接種を受けた後、気になる症状や体調の変化があらわれたら、すぐ医師に相談してください。

詳細は、医薬品医療機器総合機構（PMDA）のホームページをご覧ください。

※1 アナフィラキシー：急激なアレルギー反応により、じんましんがでたり呼吸が苦しくなったりすることがあります。

『重篤副作用疾患別対応マニュアル アナフィラキシー』

<http://www.pmda.go.jp/files/000144285.pdf>

※2 急性散在性脳脊髄炎：自己免疫（免疫力が強すぎて自分自身の体を攻撃してしまう）という現象で起こる脳や脊髄の病気です。発熱、嘔吐（おうと）、意識がはっきりしない、手足が動きにくいなどの症状がみられます。

『重篤副作用疾患別対応マニュアル 急性散在性脳脊髄炎』

<http://www.pmda.go.jp/files/000145987.pdf>

もしものために知っていただきたいこと

- ・万が一、定期予防接種で副反応が現れ、医療機関での治療が必要になったり、生活が不自由になったりしたとき（健康被害）は、法律に定められた救済制度（健康被害救済制度）があります。
- ・制度を利用するには、申込が必要です。お住まいの市町村にご相談ください。
（制度を利用するには、一定の条件があります）
- ※ 詳細は、厚生労働省ホームページをご覧ください。「予防接種 救済制度」で検索できます。

（問い合わせ先）

南三陸町保健福祉課 健康増進係 TEL：0226-46-5113 FAX：0226-46-4587

宮城県本吉郡南三陸町字志津川沼田 14 番地 3 総合ケアセンター南三陸内